Sound of Story～貴方の物語～

霧柚 祐兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ～貴方の物語～

【Ｎコード】
Ｎ９３３７Ｉ

【作者名】
霧柚　祐兎

【あらすじ】
この世界にはいくつもの可能性があって、この世界が貴方のものになるのかもしれないし、あの世界が私のものになるのかもしれない。絶対に有り得ないような事だって、物語と呼んでしまえば、もうそこに有るのです。そんないくつかの物語の詩。貴方に少しでも届きますように。

プロローグ

貴方が暮らす世界には、貴方だけの物語がある。
私が知らない。貴方だけの物語がある。

始まりはいつも、不思議な出逢いから。
始まりはいつも、ロマンある想いから。

貴方が知らない世界には、いろんな住民がいます。
そして、一人に一つの物語がある。

そんな愛のお話です。
そんな哀のお話です。

私が眺める世界には、私だけの景色がある。
貴方が知らない。私だけの世界がある。

始まりはいつも、運命の出逢いから。
始まりはいつも、偶然の悪戯から。

いくつかの物語です。貴方が読んでくれますように……
いくつかの物語です。貴方が想ってくれますように……

貴方のような人々に、少しでも届きますように……

故郷の唄

その場所に何があるのだろう。
その場所に誰がいるのだろ。
一分の一の自分の中、見たことない故郷。
そこに何があるのだろう。

汚い水、小さな川、虫捕り網で小魚捕った。
そんな僕がいた時代が、どうしてこうも綺麗なのだろう。
狭い部屋、流れるブルース、世界を照らす光の様に。
こんな唄がある時代で、どうして血が流れるのだろう。

淋しい事は増えていくばっか。
背が伸びるに連れて、見える世界は汚れていった。
悲しい事は全部、思い出になった。
背が縮むに連れて、世界は何故か輝くのだろうか。

その場所に何があるのだろう。
孤独を産んで、悲しみを溜めた。
最果てにある、僕の故郷に
どんな想いがあるのだろう。

消毒液の独特の臭い、保健室、一人きりのベッド
仮病癖だったあの頃に、どうして憧れてしまうのだろう。
ヘリウムガス、人形劇、あの子を見て想った事。
疑問ばかり過ぎった事、そんな魔法も今は解けた。

つまらない事しか見えなくなった。
歳を重ねるに連れて、世界は広がり暗くなっていった。

此処には一体、何があるのだろう……

「忘れない？　さようならなんて言わないよ」
「泣かないで。最後は笑って別れましょう」

あの頃知った悲しみは今でもまだ魔法のままだ。
解けない謎がまだまだある。暗くなった世界に光る。
あの頃の想い、まだ此処にはあるのかもしれない。

この場所に誰がいるのだろう。
あの頃の僕、あの日の彼女。
心の底に住んでる住民
其処にはどんな魔法があるだろうか。

この場所に何があるのだろう。
あの頃の想い、あの時の涙。
最果てにある、僕の故郷に
あの頃の想い、あの時の涙。
あの時代の気持ちのまま、幸せな僕はいますか？

青空の唄

いつにもなく、君はなんか不機嫌そうだ。ねぇ？　何処見てるの？
心そこに無く、幾つもの管を纏って、心臓の動く音が聴こえる。

君がいない世界なら、僕はいなくてもいいんだけどな。
君も僕もいなくても、簡単に回ってしまう世界が嫌だ。

そこに愛が有る限り。
君に繋がった管から、僕の声も伝わるかな……
そこに愛が有る限り。
問題無く回る世界だ……僕も君も置き去りに。

今にももう、君の心臓は音を無くしそうだね。何を考えるの？
間違いじゃない。その波線が直線になる時、僕の世界は崩れてしまう。

君がいない世界なら、僕は孤独と仲良くなれるかな。
君も僕も見えなくても、笑顔で溢れてしまう世界が嫌だ。

こんな、自分も嫌だ……

白いベッド。冷房の風。途切れない音。綺麗な寝顔。
白い素肌。塞がった瞼。止まった心臓。綺麗な寝顔。

君が好きだった青空は今日も無残にも広がっていて。
君が好きだった青空の下を、君を亡くした世界を
崩れてしまった僕の世界を、瓦礫の下敷きのまま

僕は生きる。

そこに愛が有る限り。
簡単に回ってしまう世界でも、愛が有る様に。
そこに愛が有る限り。
消えてしまった姿でも、そこに愛が有る限りは……

どうか、回ってしまう世界であって欲しい。
どうか、僕と君の愛も回る世界にあって欲しい。
どうか、笑っている世界であって欲しい。
どうか、君から見た地球が綺麗に見える様に……

本棚の唄

あの日、彼が伝えたかった事。
あの日、彼女が言いたかった事。
それぞれが時空を越えて
今、同じ場所に集う事。

友達がいない。君にそっと、話し掛けて気持ちを近づけた。
「ねぇ、星は好きかい？」って尋ねて、言う「綺麗だよね」
だったら、あの星を目指そう。この鉄道に身を委ねてさ。
君が消える。その前に、流れ星が見れるといいな。

此処にはもう何も無い。皆、無くなってしまったんだ。
だから、このスーパーカブで何処までも旅をしようか。
最果てにある光をほら、見えた時には後戻り出来ないよ。
君が消えるその前に、世界が滅びてくれればいいな。

あの人が想いを込めた本。
この本棚に並んでいる。
あの子が想いを込めたモノ。
僕の心の本棚にある。

間違いが嫌い。失敗はしない。何もかも完璧に出来なきゃ嫌。
そんな奴に分かる事じゃない。成長株。
世界が滅びる時には、きっと奴はパニクるね。

あの人が想いを込めた本。
地元の本屋で見つけたよ。
あの子が生涯懸けた夢。

叶わず消えても綺麗でさ。

何年間も溜め込んできた、君を重くした悲しみが
何秒かで消えてしまう事、その本棚に並んでるよ。

君が想った、あの幸せが君自身の本棚にあるよ。
君が願った、あの幸せが君自身の本棚にあるよ。

あの日、彼が伝えたかった事。
あの日、彼女が言いたかった事。
それぞれが時空を越えて
今、同じ場所に集う事。

涙のブルース

「もう、嫌になったの……」
黄昏れ時、時計台の下、綺麗に積もった雪。
この世で一番、不幸になった。その印、赤く染まった雪。

「ねぇ、一緒にいこう」
星空の下、漆黒の闇、二人を包む冬の風。
この世で一応、生きていた。それも此処まで、ねぇ、いこう。

銀河ステーションを出て、僕達は進みます。
あぁ、そこには何があるのだろう。夢物語は続きます。

二人きりになった世界だから、ねぇ、何処までも一緒にいこう。
あの銀河の先まで、あの世界の果てまでも、僕等ならいけるね。

涙の生まれた世界から、温もりのホームを目指す。
この世界はずっとそうだ。いつまでも狂ったままで……
涙の唄が流れた路地から、世界の果てをまた見よう。
この世界はずっとそうだ。いつまでも腐ったままで……

救いようが無いもので……　救う奴もいない訳で……

「ねぇ、一緒にいこう」
星空の下、漆黒の闇、二人を包む冬の風。
この世で一応、生きていた。それも此処まで、ねぇ、いこう。

銀河ステーションを出て、僕達は進みます。
あぁ、そこには何があるのだろう。夢物語は続きます。

二人きりになった世界だから、ねぇ、何処までも一緒にいこう。
あの銀河の先まで、あの世界の果てまでも、僕等ならいけるね。
二人きりになった世界なのに、ねぇ、悲しみは見えないね。
この狂った世界なら、この腐った世界なら、そんな痛み。

そんな悲しみは見えやしない。僕等はずっと二人きり。
そんな温もりは出来やしない。僕等はずっと二人きり。

命のブルース

偶然、君のゼンマイは巻き数が少なかっただけ。
人は皆、自分の手じゃその命のゼンマイは回せない。
人の助けがいるように、人の存在がいるように。
僕等はそうやって生きてきた。だから、まだ回ってる。

何遍試みたって手首に傷が増えるだけ。
それが分かっていても、何遍も死のうとする馬鹿です。
私が此処にいらないように。貴方が此処にいらないように。
生き物では孤独がブレイク。だから、温もりは愛しかった。

この世界が好きなら、生きてるだけの馬鹿の様に。
この世界が嫌いなら、死にたがりの少女の様だ。

いなくなった、あの子の様だ。
死んでいった、あの子の様だ。

何をしたって上手くいかない。「人並みがいい……」
人である事は確実なのに、人ではない人である様に。
私の心に突きつけるナイフ。自作自演で突きつけるナイフ。
世界は腐る事が流行中。だから、もう……　ねぇ？　もう……

こんなはずじゃなかったはずだ……上手く生きているはずだった。
こんなはずじゃなかったはずだ……綺麗に嘘を被ったはずだった。

この世界は腐ってる。もう、瞼は開かないままで……
この世界は狂ってる。もう、駄目なの？　ねぇ？

この世界が好きなら、生きてるだけの馬鹿の様に。
この世界が嫌いなら、死にたがりの少女の様だ。

いなくなった、あの子の様だ。
死んでいった、あの子の様だ。
僕の居場所は無くなった様だ。
僕は生きる事を辞めるそうだ。

愛のブルース

いつも君は一人で泣く。部屋の隅で一人で泣く。
そこに愛が足りないから。そこに想いが足りないから。
誰かが亡くなったニュース。翌日から消えてったニュース。
そこに愛が足りないから。そこに想いが足りないから。

見ない振りして傷付いて。嘘を暴かれて死に急ぐ。
そこに答えが載ってないから。そこに偽りしか見当たらないから。
好きなあの子が堕ちていく。大好きなあの子が壊れてく。
そこに答えが載ってないから。そこに偽りしか見当たらないから。

あぁ、光が射して、笑顔で埋まる。
何処までも澄んで綺麗な世界だと思うかい？

「何も無い世界だ」と言う。「何もかもくだらない」と言う。
此処が底であるように。此処がそこであるように。
「私は要らない」と言う。「世界は終わるね」って言う。
此処が底であるように。此処がそこであるように。

あぁ、人が愛しくて、願いが光る。
誰もが幸せに生きてる世界だと思うかい？

血塗れで塗り替えられない世界。
新しい時代。ねぇ、いつ来るんだ？
この世界に光は射すのか？
本当の姿がこれでいいのか？

ここに愛が足りないから……　ここに想いが足りないから……

此処が底であるように……　此処がそこであるように……

あぁ、光が射して、笑顔で埋まる。
何処までも澄んで綺麗な世界だと思うかい？

あぁ、人が愛しくて、願いが光る。
誰もが幸せに生きてる世界だと思うかい？

こんな世界に愛のブルースは流れるかい？
君の耳に届くかい？　世界は愛を知っているかい？

カナシゲ

何をすれば許されるんだ？　こんな狂っちまった世界で
「うるせぇ。死ね。気持ち悪い」　そんな言葉に興味は無い。
そんなこと言う奴は完全無視で、世界は今日も回ってます。
何も出来ない人たちを集め、不思議と今日も回ってます。

何も上手くいかない。
この場所に光は射すの？

知らない奴の誕生日で今日は全国的に休みらしい。
それって何の意味があるの？　俺は全く知らないのに。
平等の世界と唱えて、やってる事に早く気付けよ。
生き物を殺して、食って、水に流す。それが人の得意技でしょ？

誰も綺麗じゃない。
この場所に愛はあるの？

全ては平等であるなんて嘘で、戦わないっていうのも嘘です。
すみません。我が国は戦線離脱して敵の命を狙ってます。
核爆弾なんて作りません。その代わり、人を犠牲に守ります。
必要な奴なんていないんだろ？　俺は死んでババァは生きるんだろ？

平等の意味を忘れた世界だ。
この場所には何も無い。
平等の意味を忘れた世界だ。
この場所に居場所は無い。

ナミダナガシテ、カナシイツモリ？

ナミダナガシテ、クルシイツモリ？

悲しげなだけ。全ては演技です。
悲しげなだけ。全ては演技です。

狂った少女

雪が積もった学校の屋上で
マフラー巻いた少女は柵の向こう側。
「貴方には分からないわ」と言う。
堕ちる姿に見とれた。狂った姿が綺麗だった。

くだらない世界。
何もかも終わらせて。
そう、少女は堕ちて逝った。

冷えきった手が温もりを求める。
ブラウスのポケットに構えたカッターナイフ。
「私はもう死んだ目をしてる」
それでも呼吸をして、白い息が見えるから。

くだらない世界。
純白のカーペットに滴る赤。
そう、少女は狂っている。

此処は何処なのでしょう？　私を助けて……
貴方は誰なのでしょう？　私を助けて……

救いようの無い少女の姿に救われた。
生気の無い笑顔に惚れていた。
「貴方も世界が嫌いでしょ？」
何処までも一緒にいこう、僕等一緒にいこうか。

くだらない世界。

何もかも終わらせて。
腐った世界を壊してよ。

くだらない世界だから
何もかも嫌になって
手首は赤く染まった。

そう、少女は狂ってるから。
そう、世界は狂ってるから。

Sound of Story

「昔々、あるところに幸せを歌う人がいました。
彼はいつまでも歌い続けました。声が出なくても歌いました。
それが世界に響くように、それが貴方に届くように
私達は平等に笑顔が分けられて、誰もが幸せに……」

この想いと、あの唄が同じ気持ちであるように
この詩と、あの唄が世界に響きますように

走る。銀河を走る鉄道を目指して、走る。
この世界に光が見えるように

Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　そんな想いの唄で
「絶望的」なのか？　死にたい事が
Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　こんな想いの詩で
「感動的」なのか？　生きてる事が

この出会いと、あの別れが同じ始まりであるように
この世界と、僕の世界が同じ志であるように

見える。星空を駆ける命が燃えて、見える。
この世界が消える前に……
この世界を走る前に……

あの女の子は突然死んじゃったらしい
あの歌い人は昨夜死んじゃったらしい
天国は人手不足だ　毎日バイト募集中だ
君は面接受けないで　合格なんてしないで

僕と走ろう。銀河を走る鉄道にのって、いこう。
この世界に光を照らすように

Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　素晴らしい世界の中
息が続く事　それが恐ろしい事
Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　くだらない世界の中
息が続く事　それが輝かしい事

Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　そんな想いの唄で
「絶望的」なのか？　死にたい事が
Ｓｏｕｎｄ　ｏｆ　Ｓｔｏｒｙ　こんな想いの詩で
「感動的」なのか？　生きてる事が

世界が今生きてる事が　こんなにも素晴らしいのか

「昔々、あるところに幸せを歌う人がいました。
彼はいつも言いました。この世界は普通だって
深く考える事も無く、運命の思うままに出逢う。
不思議とこの世界は平等に始まりと終わりがあるって」

エピローグ～夜の商店街～

彼女が見た物語を知ろう。「死のう」その言葉の意味を。
彼女が見た景色を知ろう。詩の本当の意味を。

時代に置いてきぼりの商店街を駆け抜けて
解けない魔法が有る限り皆ガキのまま

夢物語。始まりの音、訪れた瞬間。
夢物語。夜の商店街、訪れた瞬間。
夢物語。終わりの音、訪れた瞬間。
夢物語。夜の商店街、駆け抜けていったんだ……

少女が見た物語を知ろう。「死のう」その言葉を吐いて。
少女が見た世界を知ろう。詩の本当の意味を。

時代に逆らい続ける姿勢を保ち続けて
魔法をいつまでも信じ続ける事

夢物語。諦めた事、訪れた瞬間。
夢物語。苦しい事、訪れた瞬間。
夢物語。嬉しい事、訪れた瞬間。
夢物語。哀しい程、この世界は脆かった……

きらきら、流れ星、きっと見た。
きらきら、流れ星、世界は流れ星のようだ

夢物語。始まりの音、訪れた瞬間。
夢物語。終わりの音、訪れた瞬間。

夢物語。揺れるこの肩に。浮かぶ目の奥に。
夢物語。夕日見た午後に。美しく似た空に。

誰もが夜の商店街を駆ける。
誰もが夢の滑走路を駆ける。

誰もがいく。魔法を唱えていく。商店街をいく。
誰もがいく。魔法を信じて言う。「死のう」
その言葉の意味を。詩の本当の意味を。
死の本当の意味を。彼女が見た世界をいこう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9337i/

Sound of Story～貴方の物語～

2010年10月28日07時40分発行